

メープルレター（82） 早春

早春の頃となりました。モントリオールの2月の日々は、ジェットコースターのように極寒と温暖の天候があがったり下がったりし、目が回るようでした。例年より過ごしやすい冬ですが、早春にはほど遠く、冬はまだ終わりそうもありません。時おり、冬の幕間の暖かさに、手袋や帽子を外した人波が町を埋めることがあります。光を求めてむっくり首を出す草の芽のようです。これほど、光が恋しいとは。。

ケベックの友人の一人は、

「ここ1週間ほど7-8度になって暖かくて嬉しいわねえ。もっとも3日ほど前は落差はげしくマイナス12度になったけど。これだと、メープルが甘い樹液を出さなくなるのよね。春先になるのを待って、メープルの木に穴をあけて樹液をだすのだけど、訳のわからない時期に突然春のように暖かくなり、また寒くなるとそこでストップしてしまうのよね。」

彼女のカントリーハウスの周りの20エーカーほどの広い所には20-30本のメープルが植えてあり、春先はぶら下がったバケツの花が咲くのだと語っていました。ここからケベックの春は始まります。それを集めて、煮詰める大仕事が、春の行事だとか。誰の家にも、冷蔵庫の片隅に必ず1瓶は置いてあるほどポピュラーなメープルシロップは、手作りにする人が少なくありません。例年同じという冬はなく、例年同じという夏がないほど、ケベックの一定した気候というのはいないようです。この暖冬も30年周期だという友人もいました。

25年ほど前にはマイナス25度が一ヶ月半ほど続いたこともありました。何を思っただか、この時期に、我が家の一角の銀行の本店の強盗をたくらみ、近くのマンホールから入り、銀行の金庫の真下に向けて夜な夜なトンネルを掘り続けていた強盗がいました。あまりの冬の寒さに後1日というところで大晦日の夜に、掘るのを放棄してしまい、出てきたところを、警察に捕まってしまったということがありました。クリスマスからお正月にかけて管理薄の時期を狙い、地道に掘り続けたのに、本当に、後1歩というところ

ろで大儲けをしそこなったようです。金庫の真下まで到達していたようです。それも、これも極寒のせい。天候次第で色々の事が起きるものです。

ドリトル先生は、膝が完璧には治らないのですが、ほぼ通常の暮らしに戻っています。痛い膝をさすりながら、裏千家の初釜に支部会長として参加して二月がはじまりました。モノトーンの静かな美しい雪景色の茶庭を背景にさせていただくお点前の一服は格別な味がしました。招待客と雑談を交えてお酒をいただきながら、美味しい懐石料理の点心をいただく僅かな時も心が清まるかのようでした。日々是好日の年になるよう祈るばかりです。ドリトル先生の何よりの楽しみは春の庭先の蝶々のようにお茶室に行き交う和服姿のお茶のメンバーのおばさんたちとのひと時なようです。点心は、和食のシェフの手をかりながら、メンバーで手分けをして料理したものだそうです。午前は招待客、午後は先生と生徒の初釜になっているようです。美しい楽しいひと時でした。

2月の終りには、孫（娘の娘）が三歳の誕生日を迎えました。難産で生まれ。健康チェックで病院通いの多かった孫娘はどうか病院通いをクリアし、健康な3歳になりました。コケティッシュでおしゃれな可愛い少女になりつつあります。口がなんとも達者になり、ドリトル先生の冗談にも確実に嫌味な返事を返し、ドリトル先生は笑い転がっています。保育園の仲良しの友達が大体同じ誕生日だからと、町の公民館のホールを借りて、二人一緒に、誕生祝をしたようです。保育園の共通の友達や他の友達を合わせ10人が集まったそうです。それぞれに両親がついてきますから、30人集まるということになるでしょうか。色々遊びを工夫するのが大変だったと娘は言っていました。この誕生祝の目玉商品は特注のピカチュウのバースデーケーキだったようです。孫娘は食べるのも忘れ、ただうっとりだったようです。

その1週間後は、双方のおじいちゃん、おばあちゃんとの誕生会。オタワからこのために出てきた、婿殿の両親は何とも嬉しそうでした。孫娘は、双方からの山のような贈り

物の包み紙との闘いでした。30分間ほど次から次へと必死で包み紙を破いていました。破き疲れたところで、ピカチュウではなく、婿殿の手製のカップケーキでお祝いとなりました。婿殿はプロ並みのコーヒーをいれてくれるので、毎回くる度に喫茶店代わりに美味しいコーヒーを味わっています。

3月始めの今の時期は、学校は1週間ほど中休みになります。働く親にとっては悩みの種でもありますが、寒い冬を脱出して旅に出る人達も少なくありません。義理の長男は、スペインのマラガで優雅なバカンス。義理の次男は、子供達を連れて、フレデリックトンから途中で1泊しながら、10時間ドライブしてニューヨークで出かけていきました。木立以外は高い物がないフレデリックトンから、高層ビル街のニューヨークに出てきた子供達はカルチャーショックを味わいながら、メトロポリタン美術館を訪ねたり、ビレッジでジャズを聞いたりしてニューヨークの旅を楽しんでいるようです。